

県立大サークル 県消防応援隊認定 式典で隊員決意新た

消防、防災に関する知識や技術の習得を図る県立大(総社市窪木)のサークル「OPU消防応援隊」が、本年度の県の「大学生消防応援隊」に選ばれた。9月30日には同大で認定式があり、隊員の学生が決意を新たにした。減少する消防団員の確保につなげようと、消防、防災活動に関する



宗田課長から認定証を受け取る「OPU消防応援隊」の社さん

るサークル活動を支援する県の事業の一環で、同サークルは2015年度に制度が始まって以来、毎年認定を受けている。消防活動の貸与や手袋、ロープといった資材の支給が受けられ、本年度は

同大や倉敷芸術科学大(倉敷市連島町西之浦)など計4大学のサークルが認定された。認定式には、新たに入隊した1年生3人を含む男女計6人のメンバーが消防

活動服に身を包んで出席。県消防保安課の宗田勝志課長が「地域防災の重要性が高まっている。将来、地域の消防、防災の中心になれるよう頑張ってもらいたい」と述べ、認定書を交付した。代表で受け取った保健福祉学部1年社業央子さん(19)は「大学や地域のために活動したい」と宣誓した。

県によると、4月1日現在の県内の消防団員は2万6515人で前年同期より605人減少。平均年齢は14年以降40歳を超え、高齢化も進んでいる。総社市内の消防団員は972人。(久万真毅)